

带状疱疹ワクチン任意予防接種費用一部助成のご案内

足立区

【接種前に必ずお読みください】

带状疱疹の発症と带状疱疹後神経痛（PHN）を予防するとともに、予防接種費用の経済的負担を軽減するため、带状疱疹ワクチン任意予防接種費用の一部を助成します。同封の予診票を持参して、足立区内指定医療機関で接種を受け、接種費用と区助成額の差額を医療機関にお支払いください。

定期予防接種、任意予防接種を問わず助成を受けられる機会は、生涯で1度限りです。

任意予防接種の助成を受けた場合、65歳で対象となる「定期予防接種」の助成は受けられません。

対象となる方

- 50歳以上65歳未満の区民の方
- ※ 過去に本制度を利用したことがない方が対象です。
- ※ 50歳の誕生日前日から65歳の誕生日前日まで接種できます。

接種期限

- 令和9年3月31日まで

助成額と助成回数

- 接種費用のうち、ワクチンの種類によって以下の金額を区が負担します。接種費用は医療機関により異なります。（全額自己負担で接種する場合、一回あたり生ワクチン約9千円相当、不活化ワクチン約2万2千円相当かかります。）

【生ワクチン（ビケン）】 5,000円 1回

【不活化ワクチン（シングリックス）】 10,000円 2回まで

- ※ 不活化ワクチンで接種を希望する場合は、接種間隔が原則2か月以上のため、令和9年1月31日までに1回目の接種を完了しないと全2回の接種を期限内に完了できませんのでご注意ください。

実施場所

【区内指定医療機関】

- 事前予約が必要です。
- 区内指定医療機関以外で接種する場合は、助成を受けられません。
- 医療機関ごとに接種費用や取り扱いワクチンが異なりますので、事前にご確認ください。

持参するもの

- 足立区民であることがわかる物（マイナ保険証、運転免許証等）
- 带状疱疹ワクチン任意予防接種予診票
- ※ 生ワクチンを接種する場合、2回目の接種はございません。予診票が2部同封されている場合は、「(任意) 带状疱疹 ①」と記載があるもののみ使用し、「(任意) 带状疱疹 ②」は破棄してください。
- 接種費用と助成額との差額（接種費用は医療機関へお問い合わせください）

注意事項

- 不活化ワクチンは、2か月間隔で2回接種します。2回目の接種日が2か月を超えた場合は、遅くとも1回目の接種日から6か月後までに接種してください。
- 一方のワクチンを1回接種したあとは、もう一方のワクチンに切り替えることはできません。
- 助成を受けられるのは、生または不活化ワクチンのいずれかを、生涯で1度のみとなります。

带状疱疹の予防接種（生ワクチン、不活化ワクチン）を希望される方へ

1 带状疱疹の症状について

带状疱疹は、過去に水痘にかかった時に体の中に潜伏した水痘带状疱疹ウイルスが再活性化することにより、神経支配領域に沿って、典型的には体の左右どちらかに帯状に、時に痛みを伴う水疱が出現する病気です。合併症の一つに皮膚の症状が治った後にも痛みが残る「带状疱疹後神経痛」があり、日常生活に支障をきたすこともあります。带状疱疹は、70歳代で発症する方が最も多くなっています。

2 接種に当たっての注意事項

予防接種の実施においては、体調の良い日に行うことが原則です。健康状態が良好でない場合には、かかりつけ医等に相談の上、接種するか否かを決めてください。また、以下の状態の場合には予防接種を受けることができません。

- ① 明らかに発熱（通常37.5℃以上をいいます）がある場合
- ② 重篤な急性疾患にかかっていることが明らかな場合
- ③ 受けるべき予防接種の接種液の成分によってアナフィラキシーを起こしたことがある場合
- ④ 明らかに免疫機能に異常のある疾患を有する場合及び免疫抑制をきたす治療を受けている場合
- ⑤ その他、医師が不適当な状態と判断した場合

	生ワクチン（乾燥弱毒生水痘ワクチン）	不活化ワクチン（組換えワクチン）
その他 接種ができない方	○化学療法やステロイドなど免疫を抑える治療をしている方 ○免疫力が落ちている方（HIV感染等） ○妊娠していることが明らかな方 ○カナマイシン、エリスロマイシンの抗生剤にアレルギー反応を起こしたことがある方	上記①～⑤に該当しなければ、免疫の状態等に関わらず接種が可能です。
接種に注意が必要な方	輸血やガンマグロブリンの注射を受けた方は治療後3か月以上、大量ガンマグロブリン療法を受けた方は治療後6か月以上置いて接種してください。	筋肉内に接種をするため、血小板減少症や凝固障害を有する方、抗凝固療法を実施されている方は注意が必要です。

※ また、心臓血管系疾患、腎臓疾患、肝臓疾患、血液疾患等の基礎疾患を有する方、予防接種を受けて2日以内に発熱や全身の発疹などのアレルギー症状があった方、けいれんを起こしたことがある方、免疫不全と診断されている方や、近親者に先天性免疫不全症の方がいる方、带状疱疹ワクチン（生ワクチン、不活化ワクチン）の成分に対してアレルギーを起こすおそれのある方等はいずれのワクチンについても接種に注意が必要です。

【女性への注意事項】

妊娠している人又はその可能性がある人は、生ワクチン予防接種不適当者として接種することができません。出産後又は妊娠していないことが確認された後、適当な時期に接種を受けてください。接種に当たっては、接種を受ける医師へご相談ください。

なお、接種後2か月間は、妊娠を避ける必要があります。

3 ワクチンの効果

	生ワクチン（乾燥弱毒生水痘ワクチン）	不活化ワクチン（組換えワクチン）
接種後1年時点	6割程度の予防効果	9割以上の予防効果
接種後5年時点	4割程度の予防効果	9割程度の予防効果
接種後10年時点	-	7割程度の予防効果

※ 合併症の一つである、带状疱疹後神経痛に対するワクチンの効果は、接種後3年時点で、生ワクチンは6割程度、不活化ワクチンは9割以上と報告されています。

4 ワクチンの安全性

ワクチンを接種後に以下のような副反応がみられることがあります。また、頻度は不明ですが、生ワクチンについては、アナフィラキシー、血小板減少性紫斑病、無菌性髄膜炎が、不活化ワクチンについては、ショック、アナフィラキシー、ギランバレー症候群がみられることがあります。

接種後に気になる症状を認めた場合は、接種した医療機関へお問い合わせください。

主な副反応の発現割合	生ワクチン（乾燥弱毒生水痘ワクチン）	不活化ワクチン（組換えワクチン）
70%以上	-	注射部位の疼痛
30%以上	注射部位の発赤	注射部位の発赤、筋肉痛、疲労
10%以上	注射部位のそう痒感・熱感・腫脹・疼痛・硬結	注射部位の腫れ、胃腸症状、悪寒、発熱
1%以上	発疹、倦怠感	痒み、倦怠感、全身疼痛

5 接種後の注意

① 予防接種を受けた後30分間は急な副反応が起こることがあります。医師（医療機関）とすぐに連絡が取れるようにしておきましょう。

② 注射した部分は清潔に保ってください。接種当日の入浴に特別な問題はありませんが、注射した部位はこすらないようにしてください。また、接種当日の激しい運動や多量の飲酒は控えてください。

6 他のワクチンとの同時接種・接種間隔

いずれの带状疱疹ワクチンについても、医師が特に必要と認めた場合は、インフルエンザワクチンや新型コロナウイルスワクチン、高齢者肺炎球菌ワクチン等の他のワクチンと同時接種が可能です。

ただし、生ワクチンについては、他の生ワクチンと27日以上の間隔を置いて接種してください。

7 予防接種による健康被害救済制度について

任意の予防接種によって健康被害が発生した場合、独立行政法人医薬品医療機器総合機構による「医薬品副作用被害救済制度」の適用となることがあります。

◆ お問い合わせ先 ◆

お問い合わせコールあだち 3880-0039 午前8時～午後8時まで（1月1日～3日を除く毎日）

足立区 保健予防課 予防接種係 TEL3880-5094